

令和6年10月9日

## 福島第一原発の汚染水発生量を抜本的に減らす対策についての ブックレットを新たに出版

本学共生システム理工学類の柴崎直明教授が代表を務める研究グループ「福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ」（略称、原発団研）は、市民向けのブックレット『福島第一原発の汚染水発生量を抜本的に減らす対策—海洋放出開始後の実態をふまえて—』を2024年7月末に地学団体研究会から出版しました。

本学共生システム理工学類の柴崎直明教授が代表を務める研究グループ「福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ」（略称、原発団研）は、2024年7月末に地学団体研究会（略称、地団研）から地団研ブックレット18『福島第一原発の汚染水発生量を抜本的に減らす対策—海洋放出開始後の実態を踏まえて—』を出版しました。

このブックレットは、2年前の2022年7月末に出版した地団研ブックレット16『福島第一原発の汚染水はなぜ増え続けるのか—地質・地下水からみた汚染水の発生と削減対策—』を、大幅に改訂したものです。ブックレット16は、出版から約2年で14,000冊以上を全国で頒布しました。

ブックレット18には、昨年8月からの「処理水」海洋放出開始後の実態を踏まえて、原発団研が提案している汚染水発生量を抜本的に減らす対策（集水井と広域遮水壁）について、大幅に加筆し、抜本的な対策の効果予測や、東電の「広域遮水壁評価」への反論についても解説しています。

今回出版したブックレット18も、出版後1か月で5,000冊を全国で頒布し、9月下旬に新たに5,000冊を増刷しました。汚染水問題や「処理水」の海洋放出問題、さらには安全・確実に廃炉作業を行うためにも、今こそ抜本的に汚染水の発生量を削減することが必要です。本書がその一助になれば幸いです。

（お問い合わせ先）

共生システム理工学類・教授 柴崎直明

電話：024-548-8437

メール：nshiba@sss.fukushima-u.ac.jp



